

新年度を迎えて ～地域の皆さんにお伝えしたいこと～

新年度が始まりました。

昨年度は当院にはいろいろな出来事がありました。6月には病院機能評価機構から回復期リハビリテーション病院としての機能評価を更新し、新たに高度・専門リハビリテーション機能の認定を獲得したことで、当院のこの領域における地域での役割を明確にしました。11月には院内の電子カルテシステムの更新も行い、病院の業務内容を効率よく整理し、当院の回復期リハビリテーション病院としての新たなスタートとなった記念すべき年でした。

一方で、コロナ騒動も昨年5月に5類扱いとなり、あまりメディアも取り上げられなくなりましたが、昨年8月には第9波、今年の2月には第10波が襲ってきました。これらの対策にはずいぶんエネルギーが必要でした。しかし、次第にコロナに対する感染対策の努力が実を結び、感染対策のために行ってきた数々の制限も緩和され、患者さんやご家族にご迷惑をおかけしない、コロナに強い病院づくりの成果が出てきています。

これらの成果を踏まえ、当院が大きく羽ばたく新年度がやってきたと、職員一同、明るい希望に燃えています。今年度は感染症対策をより一層強化しつつ、リハビリテーション医療の更なる質の向上に努め、地域の皆さんが安心して

ご利用いただける医療機関として、さらなる信頼と期待に応えるため、各種取り組みを進めてまいります。入院患者さんとそのご家族に対しても、安心して治療を受けられるよう、当院の持ち前の多職種連携体制のもと、心のケアやサポート体制の充実に努めてまいります。患者さん一人一人が、温かい医療と支援を受けられるよう、全力で取り組んでまいります。

また、地域との連携を一層深め、地域住民の皆さんが健康で豊かな生活を送れるよう、積極的に活動してまいります。地域のニーズに合った医療サービスの提供や健康増進活動に力を注ぎ、地域社会との絆をより一層強固にしてまいります。

新たな年度のスタートを迎え、皆さんと共に成長し、より良い医療サービスを提供できるよう、全力で努めてまいります。何卒、変わらぬ

ご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

病院長
大野 辰治

「湖岸の河津桜」
地域の方よりご投稿いただきました



病棟からこんにちは ③③

新入職1年目のご挨拶

学生の頃、当院で実習中に日々のコミュニケーションの大切さと、関わり方によって患者さんの強みを引き出していくことができると学び、「患者さんの思いに寄り添った看護師になりたい」と思い、当院に入職しました。

入職から1年が経ち、様々な患者さんに関わっていると傷の痛みや今後の不安、家庭の状態など、実習に来ていた頃より患者さんには多くの悩みと辛さがあると知り「思いに寄り添うこと」の難しさを実感しました。そこで、先輩の患者さんへの話し方や聞き方を参考にしつつ、「なにか困っていることはありませんか」と聞く時間を大切にするようにしました。「なにもない」と言う方も多いですが「ありがとう」と笑顔を見せていただいたときはとても嬉しく会話の大切さを感じます。

まだ焦ることも多いですが、患者さんに一番近い看護師だからこそ「忙しそう」と思わず、「話したい」と思える看護師になれるよう日々勉強し『安心できる看護師』を目指します。

看護師 吉田 友菜



Photo by 川戸 菜緒

作業療法士として入職してから早くも一年が経ちました。不安と緊張の中、仕事を始め患者さんの受け持ちを持たせて頂きながらたくさんの患者さんと関わらせてもらいました。学生の頃に習ったことと臨床で目の当たりにすることにギャップを感じ、自分自身のスキルや知識不足を痛感しました。

当院では在籍するセラピストの数も多く、たくさんの先輩方に指導頂ける環境や困った時に支え合える同期がいる環境で働けることを大変嬉しく思っています。

仕事で悩み、落ち込むこともありますが患者さんからの「ありがとう」という感謝の言葉や「頑張っね」と暖かい励ましの言葉を頂くこともあり、やりがいを感じています。患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、患者さん一人一人のその人らしさを大切に、より良いリハビリテーションをできるよう一つでも多くのことを学び、精一杯頑張っていきたいと思っております。

作業療法士 雪村 洸貴



Photo by 齊藤 優理

リハビリ療法部のこだわり 屋上庭園 ②～傾斜歩行ゾーン～

作業療法士 真継 大輔

当院の屋上庭園では、退院後の生活での心配や不安を取り除き、安心して暮らしていく、趣味や自分らしく過ごせる時間を取り戻す…そのために必要なリハビリテーション環境を整えています。

退院後やりたいこと、行きたい場所、思い出の詰まった庭へ、また足を運べるようお手伝いするために、こだわり抜いて作った庭園をご紹介します。



【傾斜歩行ゾーン】

赤土色の傾斜歩行ゾーンは、歌川貞秀作の「東海道近江八景一覽之図」の比叡山をモデルに考案・作成しました。

大津市は琵琶湖を一望できる山手にも広大な住宅地が広がっており、必然的に一歩家を出たら坂道という地域が多くあります。生活していくうえで、独歩に限らず、杖や歩行器などが必要になった場合、そういった坂道での生活復帰のための歩行練習ができるように、様々な勾配角度の傾斜を設置しました。



- ・勾配について
(以下の勾配での練習が可能)
- 1/6 (約9.5°、16.7%)
- 1/4 (約14°、25%)
- 1/3 (約18.4°、33.3%)
- 1/2 (約26.6°、50%)

参考：

- ・バリアフリー法では、公共施設での勾配は1/12 (約4.8°、8.3%) より緩やかになるように制限されている。
- ・道路構造令：縦断勾配の最大12%とされている。
- ・当院周辺の歩道の勾配：1/6～1/4

出前
講座

お茶の間教室「はつらつサロン」 ◎京都信用金庫 膳所支店 サロンご参加のみなさんと◎

～地域の方に育てられる新しい力～

春が待ち遠しい、2/20京都信用金庫 膳所支店のフロアをお借りして、出前講座を開催しました。

今回は、普段医療福祉講座にご参加いただいている3団体の皆さんにお声掛けさせて頂き、はつらつサロンを開催いたしました。

ちょうど今回は、作業療法士の地域デビューにあたる講座で皆さんのお力をお借りしてのひとときとなりました。

初々しく少々緊張気味の様子に、皆さん暖かく見守って一緒になって盛り上げてくださいました。

私たちの講座は、こうして地域の皆さんに助けられ、育てられ成長しています。

今回、ご参加いただきました皆さんに深く感謝申し上げます。

作業療法士 岡崎 匠真
社会福祉士 上嶋 美由紀



今回地域の皆さんと、膝・肩・腰の体操と認知症予防体操を行わせていただきました。初めて先輩の付き添いなく一人の実践で、拙い部分は多々あったかと思いますが皆さんに温かく迎えていただきました。この経験を次回の講座へ活かしていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

岡崎 匠真

【病院理念】

慈(めぐみ)の源“マザーレイク”のように、私たちは地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう努めます。

【基本方針】

1. すべての職種が協働し、生活を支えるリハビリテーションの実践に最善をつくします。
2. 患者の意思を尊重し、科学的根拠と倫理観に基づき、安全と安心の医療を提供します。
3. 医療・介護・福祉連携を推進し、地域包括ケアシステムの推進に貢献します。
4. すべての職種のたゆまぬ研鑽により、質の高いチーム医療をめざします。
5. 人材の育成に努めるとともに、職員が働きがいと充実感の持てる職場づくりをめざします。

第43回 回復期リハビリテーション研究大会発表

(3/8.9 熊本城ホール)

『当院における脳血管疾患患者のリハビリテーション実績指数除外患者の退院予測運動FIMと退院時実測運動FIMについての検討』

理学療法士 中曾根 由梨

滋賀県社会福祉学会 第42回大会発表

(2/22 滋賀県立長寿社会福祉センター)

『出張講座から芽生えた新たな地域力～エンパワメントが引き出された事例』

社会福祉士 上嶋 美由紀